

2024年度（令和6年度） 町田市立南中学校 国語科 3年 年間指導計画及び評価規準

使用教科書：国語3（光村図書出版） 年間授業時数：105時間

月	単元・章・教材名	時数	学習目標	学習活動	評価規準
4	世界はうつくしいと	1	<p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 詩を通読する。</p> <p>2 詩を読み深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詩を読んで感じた素朴な疑問を質問の形にして書き出す。 ・隣どうして質問し合い、お互いに相手の質問について考えたことを伝える。それを踏まえて、自分なりの答えを考える。 ・自分にとっての「うつくしいもの」を考え、グループで交流する。 <p>3 詩の特徴を生かして朗読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの解釈を踏まえて、詩をもう一度朗読し、最初に読んだときと比べて、詩に対する印象はどのように変わったか、自分の言葉でまとめる。 	<p>【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>→詩に用いられている語句や表現に着目して考えている。</p> <p>【態】進んで語感を磨き、友達の考えや今までの学習を生かして詩の解釈や朗読をしようとしている。</p>
4	1 深まる学びへ 握手	6	<p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</p> <p>◎文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えることができる。</p> <p>◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。</p>	<p>1 作品を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意する語句・新出漢字を調べる。 <p>2 作品の設定を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「現在」と「回想」の部分を読み分け、時間の順序を整理しながら、場面や登場人物の設定を確認する。(学習①-1) ・展開のしかたにどんな特徴や効果があるか話し合う。(学習①-2) <p>3 登場人物の人物像を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ルロイ修道士」の人物像が読み取れる言動を抜き出し、どのような人物であるかを短くまとめる。(学習②-1) <p>4 登場人物の心情を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わたし」と「ルロイ修道士」との間でかわされた、3回の握手に込められた二人の思いを考える。(学習②-2) ・「ルロイ修道士」の葬式で、「わたし」が「知らぬ間に、両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつけていた」ことの意味を考える。(学習②-2) <p>5 読み深めた感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み深めたことを踏まえ、「ルロイ修道士」の考え方や生き方について、自分で考えたことや感じたことを書く。(学習③) <p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「握手」の展開のしかたにはどんな特徴や効果があったか、自分の言葉でまとめる。 	<p>【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしようとしている。</p> <p>→時間・場所など、「現在」と「回想」の部分を読み分けるポイントとなる語句や、登場人物の心情や人物像を表す言葉、比喩表現などに着目している。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えようとしている。 <p>→「現在」と「回想」の部分を読み分け、物語の展開のしかたの効果について考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えようとしている。 <p>→文章の内容に沿って登場人物の生き方や価値観を読み取り、自分の知識や経験と比較しながら考えている。</p> <p>【態】粘り強く物語の展開のしかたを捉え、学習課題に沿って作品を批評したり、考えたことを伝え合ったりしようとしている。</p>

				・「ルロイ修道士」の生き方や価値観について語り合い、考えが深まったことを挙げる。	
4	評価しながら聞く	1	<p>◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。</p> <p>◎目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。</p> <p>◎話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを受けて質問したり評価などを述べたりする。</p>	<p>1 ペットに関する討論会の一部を聞き、メモを取る。</p> <p>・「ペットを飼うことを人にすすめるか」について自分の考えをもつ。</p> <p>・P26「討論会の一部」を自分の考えと比較したり、内容や表現のしかたを評価したりしながら聞き、メモを取る。</p> <p>・メモの例と「上達のポイント」を参考にして、自分のメモの取り方を評価する。</p> <p>2 評価しながら聞く練習をする。</p> <p>・4人グループを作り、2人が話し合い、残り2人は聞き取りメモを取る。</p> <p>・話し合った2人は聞き取りメモについて、メモを取った2人は話し合いで出た意見の内容や表現のしかたについて評価し、伝え合う。</p> <p>・役割を交代して、活動をもう一度行う。</p> <p>3 学習を振り返る。</p> <p>・自分の考えと比べたり、表現に生かしたい点を意識したりしながら聞いたか。</p>	<p>【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2イ) →根拠としている情報について、事実関係や裏付けなどに注意して聞いている。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討している。</p> <p>→自分の意見と根拠を明確にし、相手の立場から予想される反論についても考えている。</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>→立場ごとの主張と根拠、共通点と相違点を整理してメモを取り、根拠の適切さや自分の考えとの違い、取り入れたい表現などを伝え合っている。</p> <p>【態】聞き取った内容や表現のしかたを進んで評価し、今までの学習を生かしてメモしようとしている。</p>
4	季節のしおり 春 学んで時に之を習ふ ——「論語」から	3	<p>◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。</p> <p>◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★漢文を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 「論語」という作品について知る。</p> <p>・教材冒頭の解説とP30の出典を読む。</p> <p>2 「論語」を読み、孔子の考え方を読み取る。</p> <p>・教材の書き下し文や訓読文を、漢文の言い回しに注意して、繰り返し朗読する。</p> <p>・脚注を参考にして現代語訳を作り、孔子の考え方を読み取る。</p> <p>3 日常生活や自分の生活を振り返り、孔子の言葉が当てはまると思われる体験や伝聞を伝え合う。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <p>・「論語」の中から、自分たちの生活に生かしていきたい言葉を選び、伝え合う。</p>	<p>【知・技】歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。</p> <p>→教材文を参考に歴史的背景を押さえ、教材の書き下し文や訓読文を読むことを通して、「論語」の世界に親しんでいる。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。</p> <p>→孔子の人間の生き方に関する考えを、自分の生き方や生活と関連づけて考えている。</p> <p>【態】人間、社会、自然などについて積極的に自分の意見を持ち、今までの学習を生かして朗読したり考えを伝え合ったりしようとしている。</p>
5	情報整理のレッスン 情報の信頼性	1	<p>◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 P32 下段の問題について、グループで考える。</p> <p>2 教材文を通読する。</p> <p>・情報は編集されているため、情報の信頼性を確かめる必要があることを知る。</p> <p>・「確認の方法①」の「チェックポイント」の観点を参考にして、</p>	<p>【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。</p> <p>→情報の発信日時、発信源、情報の目的などの観点から、情報の信頼性を確認している。</p> <p>【態】学習課題に沿って情報の信頼性の確かめ方を理解し、積極的に使おうとしている。</p>

				<p>P32 下段の問題を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に本を手にとって、「確認の方法②」の「チェックポイント」の内容について確認する。 <p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなメディアが伝える情報はすべて編集されていることを理解し、信頼性の確かめ方について確認する。 	
5	文章の種類を選んで書こう 修学旅行記を編集する	4	<p>◎文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。</p> <p>◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。</p> <p>◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く。</p>	<p>1 4, 5 人のグループで編集会議を開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行で心に残った出来事などを、付箋やカードなどに書き出す。 ・メモを整理し、P37「目次の例」を参考に掲載する記事の内容や順序などの大枠を決める。 ・P34 下段「①文章の種類を決める」を参考にしながら記事の内容を効果的に伝えられる文章の種類や、文章に添える図表や写真について話し合い、担当するページを決める。 <p>2 紙面構成を考えて下書きをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P35 下段を参照し、文章の種類に合わせて、内容や順序、図表や写真の配置などを工夫し、わかりやすい紙面構成を考え、下書きする。 <p>3 下書きを読んで助言し合い、清書する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P37 窓「魅力的な紙面を編集するには」の観点を参考にして、お互いの下書きをチェックし合う。 <p>4 冊子にまとめ、読み合う。</p> <p>5 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】文章の種類とその特徴について理解を深めている。</p> <p>→随筆、物語、報道文など、さまざまな種類の文章があることを理解している。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。 →修学旅行で心に残った出来事から題材を選び、その題材に関する情報や図表、写真を集め、出典を明らかにして記事の中で活用している。 ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。 →担当した記事の内容が効果的に伝わる文章の種類を選択し、その種類に合わせた文章の構成や表現を工夫している。 <p>【態】進んで文章の種類を選択し、学習の見通しをもって情報を編集し文章にまとめようとしている。</p>
5	漢字 1 熟語の読み方 漢字に親しもう 1	2	<p>◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 導入の例から、漢字二字の熟語には、音または訓を重ねる読み方と、音と訓を組み合わせた読み方があることを知る。</p> <p>2 教材文を読み、さまざまな熟語の読み方について理解する。</p> <p>3 練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。</p> <p>4 P40「漢字に親しもう 1」の問題に取り組む。</p>	<p>【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。</p> <p>→漢字の音訓や、熟語における音訓の組み合わせに注意して、漢字を読んだり書いたりしている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
5	2 視野を広げて 作られた「物語」を超えて	5	<p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。</p> <p>◎文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えることができる。</p> <p>◎文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価することができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通</p>	<p>1 全文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意する語句・新出漢字を調べる。 <p>2 筆者の問題意識（話題）を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この文章では、「物語」という言葉を、どのような意味で用いているか、文脈に即して読み取る。 ・ゴリラについて作られた「物語」とは、どんなものか、また、それはどのような経緯で作られたのか、説明の要旨を捉える。 	<p>【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。</p> <p>→ゴリラの事例と人間社会の話に着目して、具体と抽象の関係を理解している。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えている。

		<p>して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★論説などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴリラの観察を通して、どんなことがわかったか、説明の要旨を捉える。 3 筆者の主張と論理の展開を捉える。 <ul style="list-style-type: none"> ・筆者は、ゴリラなど野生動物の事例から、人間に共通するどんな性質を導き出したか、また、その性質は、人間の社会にどんな状況をもたらすと考えているかを捉える。 ・筆者は、作られた「物語」を超えて真実を知るためには、どうすべきだと主張しているか、要約する。 ・本文を序論・本論1・本論2・結論に分け、ゴリラなど野生動物の事例から、筆者の主張に至る論理の展開を説明する。 4 筆者の主張と論理の展開を評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の体験や見聞きした事例を根拠にして、筆者の主張に共感できるか否かをグループで話し合う。 ・「主張に至る論理の展開は、わかりやすく適切か」、「読み手の共感を得るのに有効か」という観点で、筆者の論理の展開を評価し、根拠を明確にしながら、考えたことを文章にまとめる。 5 学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・「物語」を作り、伝えたがる人間の性質を踏まえて、自分が今後、意識していきたいと思うことを語り合う。 ・論理の展開を評価するときには、どんな点に着目するとよいか、自分の言葉でまとめる。 	<p>→論説の特性を踏まえ、原因と結果、意見と根拠、具体と抽象などの関係に着目して、論理の展開のしかたを図式化するなどして捉えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価している。 <p>→原因と結果、意見と根拠、具体と抽象などの関係に着目して、それらが文章の中で無理なく結び付いているかを確かめながら、自分の考えをまとめている。</p> <p>【態】進んで文章の構成や論理の展開のしかたについて評価し、情報と情報の関係について深めた理解を生かして、文章にまとめようとしている。</p>
6	思考のレッスン 具体化・抽象化	1 <p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 P50の教材文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体と抽象の関係で捉えられるものや、具体と抽象の関係にある論理の展開のしかたについて理解する。 ・下段の問題1に取り組む。 ・まとめた文をお互いに伝え合う。 <p>2 P51の教材文を通読し、具体化と抽象化の程度について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下段の問題2に取り組む。 ・グループになって、各自が作った具体例の具体化の程度を順序づけ、全体に発表する。 <p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んだり書いたりするときには、具体と抽象の関係についてどんなことに注意すればよいか確認する。 	<p>【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。</p> <p>→具体と抽象の関係にある論理の展開のしかたや、抽象と具体の程度を捉えながら読んだり書いたりしている。</p> <p>【態】具体と抽象の関係について積極的に理解し、学習した内容を生かして課題に取り組もうとしている。</p>
6	説得力のある構成を考えよう スピーチで社会に思いを届	4 <p>◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。</p> <p>◎目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を</p>	<p>1 話題を決めて、情報を集める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P56「リオの伝説のスピーチ」を通読する。 ・P52下段を参照させ、社会で起きている出来事や問題の中で、 	<p>【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。</p> <p>→情報の発信者・出典、調査方法、情報の数などが適切か確認して、必要な情報を集めている。</p>

ける 資料 リオの伝説のスピーチ	1	<p>決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。</p> <p>◎自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫することができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。</p>	<p>多くの人に伝えたいと思ったことを選び、話題にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチの目的と、スピーチをする相手や場を確認し、信頼性の高い情報を集める。 <p>2 話の構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P53「観点」や下段を参考にしてスピーチの構成を考え、構成メモにまとめる。 ・構成メモの内容について、P55 窓「聞き手の心に訴えるスピーチをするために【内容を考えるとき】」を参考にして、グループやペアで評価し合い、推敲する。 <p>3 スピーチの会を開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推敲した構成メモを基に、P54「スピーチの例」やP55「スピーチで大切な三つのポイント」、P55 窓「聞き手の心に訴えるスピーチをするために【発表するとき】」を参考にスピーチをする。 <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠とする情報は、信頼性の高いものを選んだか。 ・聞き手の心を動かすスピーチをするために、どんなところに気をつけたか。 	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討している。 →話す目的や相手を明確にし、相手の立場に立って、伝える必要がある情報を選んでいる。 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。 →興味を引く導入や明確な主張、聞き手が納得できる根拠や提案の設定、適切な説明の順序などを考えて、話を構成している。 <p>【態】相手を説得できるように粘り強く論理の展開などを考えて話の構成を工夫し、今までの学習を生かして自分の考えを話そうとしている。</p>
6	漢字に親しもう 2	<p>1</p> <p>◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 新出漢字を確認する。</p> <p>2 練習問題に取り組む。</p> <p>◇漢字の音訓、部首、送り仮名などの既習事項を思い出させる。</p>	<p>【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。</p> <p>→文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることに慣れている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
6	文法への扉 1 すいかは幾つ必要？	<p>2</p> <p>◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。(2年知・技(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>1 教材文を読み、文法的な観点から表現を見直すことの意義を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入の課題に取り組み、果物の個数について、母と息子の間で誤解が生まれた原因について考える。 ・誤解の原因を指摘し、母親はどのように伝えるべきだったのか話し合う。 <p>2 P212「文法1 文法を生かす」を読み、文節・連文節の係り受けなど、既習の文法について理解を深め、文法の知識を表現や読解に生かすポイントを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。 	<p>【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めている。</p> <p>→既習の文法事項が、日常の会話や文章を見直したり文の表現効果を考えたりする際のポイントになることを理解している。</p> <p>【態】助詞や助動詞の働きなどを進んで振り返り、今までの学習を生かして練習問題に取り組もうとしている。</p>
6	情報社会を生きる 実用的な文章を読もう 報道文を比較して読もう	<p>3</p> <p>◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。</p> <p>◎文章を批判的に読みながら、文章に表れている</p>	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 社会生活の中で触れたことのある実用的な文章を挙げる。</p>	<p>【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。</p> <p>→実用的な文章の資料ごとに、情報の発信者・発信時・発信目的を確認している。</p>

		<p>ものの見方や考え方について考えることができる。</p> <p>◎文章の構成や論理の展開, 表現のしかたについて評価することができる。</p> <p>◎目的や意図に応じて, 社会生活の中から題材を決め, 集めた材料の客観性や信頼性を確認し, 伝えたいことを明確にすることができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに, 読書を通して自己を向上させ, 我が国の言語文化に関わり, 思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★論説や報道などの文章を比較するなどして読み, 理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。</p> <p>★実用的な文章を読み, 実生活への生かし方を考える。</p>	<p>2 P62「やってみよう」①に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人用と子供用のパンフレットを読み比べ, 共通点と相違点を書き出す。 ・子供用のパンフレットに見られる工夫を発表する。 <p>3 P63「やってみよう」②に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傍線部について, 小学校3年生のみどりさんにわかるように説明する。 ・木村さん役とみどりさん役に分かれ, 交代で説明する。みどりさん役は, 説明を聞いてもよくわからなかったことを質問する。 <p>4 P63「やってみよう」の③に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木村さんが注意すべき情報に傍線を引き, なぜ注意すべきなのか理由も考える。 ・木村さん役と家族役に分かれ, 傍線を引いた情報について交代で説明する。 <p>5 P64～67の報道文 A・B を通読し, P68「やってみよう」に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着眼点を参考に, 「見出し」「リード文」「本文」「写真」の観点から, 二つの記事を比べ, 気づいたことや考えたことを表にまとめる。 ・4, 5人のグループになり, 表に書き出した内容を共有し, 共通点や違いに着目して, 気づいたことや考えたことを伝え合う。 <p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実用的な文章を読むときや書くときのポイントには, どのようなものがあつたかを挙げる。 ・報道文には発信者の意図が反映されていることを踏まえて, 自分が今後, 報道文を読む際に意識していきたいと思うことを伝え合う。 	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において, 文章を批判的に読みながら, 文章に表れているものの見方や考え方について考えている。 →事実や事例の選び方, 取り上げ方や語句の選び方に着目して文章を読み, 書き手の思惑や意図について考えている。 ・「読むこと」において, 文章の構成や論理の展開, 表現のしかたについて評価している。 →読み手に必要な情報を過不足なく伝えているか, 読み手の状況に合わせた言葉や表現を使っているか, 不親切で誤解を招く表現になっていないかなどの点に着目して文章を読み, 課題に取り組んでいる。 ・「書くこと」において, 目的や意図に応じて, 社会生活の中から題材を決め, 集めた材料の客観性や信頼性を確認し, 伝えたいことを明確にしている。 →観点ごとに情報を整理し, 着眼的を参考に情報の客観性や信頼性を確認しながら表にまとめている。 <p>【態】積極的に情報の信頼性の確かめ方を使って読み, 学習したことを踏まえて実生活への生かし方を考えようとしている。また, 文章の構成や論理の展開, 表現のしかたについて進んで評価し, 学習課題に沿って報道の文章を比較し, 考えをまとめようとしている。</p>
7	<p>言葉とともに 俳句の可能性 俳句を味わう [書く] 俳句を作って楽しもう</p>	<p>3</p> <p>[書く] 俳句を作って楽しもう 3時間 (読②書①)</p> <p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し, 語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎文章の構成や表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表 C(1)ウ)</p> <p>◎多様な読み手を説得できるように論理の展開</p>	<p>1 情景を想像しながら, それぞれの俳句を朗読する。(学習①)</p> <p>2 本文を読み, 俳句についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「季語」「有季定型」「歳時記」「切れ字」「自由律俳句」「無季俳句」の意味を確認する。(学習②-1) ・本文中から, 筆者のものの見方や感じ方がよく表れている語句や表現を抜き出して, 意味を確認する。(学習②-2) ・本文や P74「俳句を味わう」から, 好きな俳句を一句選び, 短い鑑賞文を書く。(学習②-3) ・同じ俳句を選んだ生徒でグループを作り, 鑑賞文を読み合う。 <p>3 P75「俳句を作って楽しもう」に取り組む。</p>	<p>【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し, 語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>→俳句で使われている語句の意味を理解したり, 豊かなイメージを喚起する効果的な語句に着目したりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の種類とその特徴について理解を深めている。 <p>→俳句の形式とその特徴について理解し, 俳句を創作している。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において, 文章の構成や表現のしかたについて評価している。 →語句の選び方や表現のしかたに着目して俳句を読み, 評価している。

	【書写】書の古典の鑑賞と学習	2	<p>などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表 B(1)イ)</p> <p>◎表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表 B(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★詩歌を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表 C(2)イ)</p> <p>★俳句を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。(2年思・判・表 B(2)ウ)</p> <p>●修学旅行に向けた学習を契機に書体と書風を学び、日常生活と芸術としての書の調和を考える。また、文化遺産に書かれた文字の書風の違いを鑑賞し、味わう姿勢をもつ。</p>	<p>・名人の作句法などを基に、俳句を作る。</p> <p>・作品を持ち寄り、P75「句会を開こう」を参考にして、句会を行う。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <p>・俳句の特徴にはどのようなものがあったか確かめる。</p> <p>・次に俳句を作るときに参考にしたい語句の使い方や表現のしかたをまとめる。</p> <p>1 事前学習において書と文化遺産についての知識を学ぶ。</p> <p>2 修学旅行を通して訪れる寺院の日本建築と「書」の関係について調べて学ぶ。</p> <p>3 修学旅行および事前・事後学習において、上記①・②についてまとめる。</p>	<p>・「書くこと」において、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。</p> <p>→伝えたいことが効果的に伝わる構成(語順)を考えて、俳句を創作している。</p> <p>・「書くこと」において、表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。</p> <p>→自分の思いや考えがわかりやすく伝わるように、語句や表現を工夫して俳句を創作している。</p> <p>【態】進んで文章の種類とその特徴について理解し、学習課題に沿って、鑑賞文を書いたり俳句を創作したりしようとしている。</p> <p>【思・判・表】文化遺産と「書」の関係を理解したうえで関心を持ち、多様な表現による文字について調べたり、人にわかりやすく伝えたりできる。</p> <p>【態】学習活動の①・②・③を通して、「書」と文化遺産の関係を整理し自分の考えをもつことができる。</p>
7	言葉を選ぼう もっと「伝わる」表現を旨として	2	<p>◎時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解することができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 言葉の変化について知る。</p> <p>・教材文を読み、「時代による言葉の変化」と「世代による言葉の変化」があることを知る。</p> <p>2 言葉の変化について話し合う。</p> <p>・昔の小説や祖父母との会話などを手がかりにして、時代や世代によって異なる言葉の例を探し、話し合う。</p> <p>3 相手や場面によって、言葉を選ぶ。</p> <p>・話す相手や場面を設定し、P77 下段にある吹き出しの文章をわかりやすく書き換える。</p> <p>・書き換えた文章を伝え合い、自分の文章を振り返る。</p> <p>・クラス全体で適切な言い方について確認する。</p>	<p>【知・技】時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解している。</p> <p>→古典や近代文学、年配の人との会話の例などの中から、自分たちの世代とは異なる言葉の使い方を見つけている。</p> <p>【態】時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて進んで理解し、試行錯誤しながら相手や場面によって言葉を選んで話そうとしている。</p>
7	言葉 1 和語・漢語・外来語	1	<p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 教材文の導入の例を基に、和語・漢語・外来語から受ける印象の違いについて考える。</p> <p>・和語・漢語・外来語の表現を比較し、感じ方の違いを伝え合う。</p> <p>2 教材文を読み、和語・漢語・外来語・混種語について理解する。</p> <p>・例を参照しつつ、それぞれの特徴を理解する。</p> <p>・P79「生活に生かす」を読み、和語・漢語・外来語をどのように使い分けるのがよいか、生活の中の具体的な場面を想定して考える。</p>	<p>【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>→和語・漢語・外来語について理解し、相手や場面に応じて適切に使い分けている。</p> <p>【態】進んで和語・漢語・外来語を理解し、今までの学習を生かして相手や場面に応じて適切に使い分けようとしている。</p>

7	読書生活を豊かに 読書を楽しむ	1	◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。 ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。	1 さまざまな読書の楽しみ方について知る。 2 「ブックトーク」、「読書会」、「読書生活をデザインする」の中から、夏休みに行う活動を選ぶ。 ・ブックトーク、読書会を選んだ生徒は、4～6 人程度のグループを作る。読書生活のデザインは個人で行う。 3 教材文に示されている各活動の内容に沿って、今後の見通しを立てる。 4 活動を行い、レポートか活動報告書を提出する。 ・読書生活のデザインを選んだ生徒は、P81 を参考にレポートを、ブックトークまたは読書会を選んだ生徒はグループごとに活動を行い、活動報告書を夏休み明けに提出する。	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。 →さまざまな読書の楽しみ方について理解し、読書活動を通して、読書の楽しさや意義を発見している。 【態】進んで読書の意義と効用について理解し、見通しをもって読書を楽しむ活動に参加しようとしている。
7	「私の一冊」を探しにいこう 羊と鋼の森 読書案内 本の世界を広げよう 読書コラム ためになるってどんなこと？	1	◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。 ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。 ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。 ★小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。	1 教科書本文を通読し、本のさまざまな探し方について知る。 2 学校図書館やインターネットを活用するなど、探し方を工夫して、興味をもてそうな本を探す。 3 見つけた本を夏休みに読み、書評やポップを書く。 4 インターネットなどから自分が選んだ本の書評やポップを検索し、自分の書いたものと比べてみる。	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解しようとしている。 →本のさまざまな探し方について理解し、興味をもてそうな本を見つけている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 →登場人物の生き方、作品に描かれた時代、社会状況などの観点から、自分の考えを書評にまとめている。 【態】進んで読書の意義と効用について理解し、今までの学習を生かして本を選んだり読んだことを書評などにまとめたりしようとしている。
9	季節のしおり 挨拶 ——原爆の写真によせて	2	◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ◎詩の構成や表現のしかたについて評価することができる。 ◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。 ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。 ★詩を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。	1 作品を通読し、当時の時代背景について確認する。 ・注意する語句を調べる。 ・作品ができた背景や時代背景を確認する。 2 「顔」という表現を捉える。(学習①) ・詩の中で繰り返し出てくる「顔」が、それぞれどのような人の「顔」を表現しているのか考える。 3 表現の効果を評価する。 ・第六連にある「午前八時一五分は／毎朝やってくる」という表現に込められた意味と、その効果を考える。(学習②-1) ・最終連に「やすらかに 美しく 油断していた。」とあるが、ここで使われている「油断」の意味とその効果について考える。(学習②-2) 4 自分の意見を述べる。 ・作者は、この詩の中で、どのようなことを考え、伝えようとしたのか、現代社会の状況と重ね合わせながら、自分の意見を述べる。(学習③)	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。 →比喩や象徴的な表現に着目し、文脈の中での意味を考えている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、詩の構成や表現のしかたについて評価している。 →詩に用いられている比喩や象徴的な表現の効果について自分の考えをまとめている。 ・「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 →現代社会の状況と重ね合わせながら詩を読み深め、作者の思いや考えに対して自分の考えをまとめている。 【態】詩の構成や表現のしかたについて積極的に評価し、学習課題に沿って読み深めた詩について、感じたことや考えたことを伝え合おうとしている。

				<p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詩に使われている表現の効果について、考えたことを伝え合う。 ・詩に表現された内容について、感じたことや考えたことを文章にまとめる。 	
9	故郷	5	<p>◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。</p> <p>◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。</p> <p>◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★小説を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。</p>	<p>1 作品を通読し、作品の設定を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意する語句・新出漢字を調べる。 ・作品の舞台や時代背景を確認する。 ・現在の場面と「私」の回想の場面を確認する。(学習①) ・「私」と他の登場人物との関係を整理する。(学習①) <p>2 場面や登場人物の設定に着目して読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「故郷の様子」、「ルントウ」、「ヤンおばさん」について、回想の場面と現在の場面とを比べて、描写がどのように変化しているかがわかる部分を、それぞれ抜き出す。(学習②-1) ・「ルントウ」と再会した場面で「私」が感じた「悲しむべき厚い壁」とは何か考える。(学習②-2) ・最後の場面で「私」が抱く「希望」や、望む社会とはどのようなものか、「私」と「ルントウ」、「ホンル」と「シュイション」の関係などを踏まえて捉える。(学習②-3) ・「私」の考え方について自分はどうか考えるか、話し合う。(学習②-4) <p>3 作品を批評する。(学習③)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み深めたことを踏まえ、作品のもつ特性や価値について批評する。 ・「学習の窓」などを参考に批評の観点を決め、本文や調べてわかった事実を根拠に論じたり、評価したりする。 <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の批評を読んで、自分の捉え方との共通点や相違点などを基に、考えが深まったことを発表する。 ・今後、小説を読んで自分の考えをもつために、大切にしたい観点を挙げる。 	<p>【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。</p> <p>→文学作品を読むことが、自分の人生や自分が生きている社会について深く考えるきっかけとなることに気づいている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。 →自分の知識や経験と比べたり、語り手や人物の立場、時代背景などを変えて読んでみたりして、作品のもつ特性や価値を探っている。 ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 →「私」が考えている「希望」や望む社会の在り方などについてどう考えるか、根拠に基づいて自分の意見を述べている。 <p>【態】粘り強く文章を批判的に読み、今までの学習を生かして小説を批評したり、自分の考えをまとめたりしようとしている。</p>
9	聞き上手になろう 質問で相手の思いに迫る	1	<p>◎敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。</p> <p>◎話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。</p>	<p>1 対談の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3～5人で一組になり、話し手(1人)、聞き手(1人)、聴衆(1～3人)を決める。 ・聞き手役は、話し手から話題を聞き、中心となる質問を考えたり、P115「対談の例」を参考にして話の流れを予想したりする。 	<p>【知・技】敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。</p> <p>→話し手や聞き手が、対談の中で、適切な言葉遣いをしている。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げ</p>

			<p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。</p>	<p>・話し手役は、P115「対談の例」を参考に、話題を選んだ理由や具体的なエピソードなどを考える。</p> <p>・聴衆役は、講評メモの用意をする。</p> <p>2 対談を行う。</p> <p>・聞き手役は、P114 窓「質問で相手の内面に迫るには」の観点に留意しながら、話し手や聴衆の様子を見て、「具体化」、「価値づけ」、「言い換え」などをして、話を引き出す。</p> <p>・聴衆役は、P114 窓「質問で相手の内面に迫るには」の観点に留意して聞き、講評メモを取る。</p> <p>3 学習を振り返る。</p> <p>・話し手、聞き手、聴衆、それぞれの立場から、対談を通して気づいたことや感じたことを交流する。</p>	<p>たり深めたりしている。</p> <p>→自分の知識や経験などと結び付けながら話を聞き、対談の中で、相手の思いに迫ることができた質問や話を豊かに展開させた応答は、どのようなものだったか捉えている。</p> <p>【態】粘り強く話の展開を予測しながら聞き、今までの学習を生かして質問したり評価を述べたりしようとしている。</p>
9	言葉2 慣用句・ことわざ・故事成語	2	<p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 導入の例のような、一まとまりで決まった意味をもつ言葉をできるだけたくさん書き出す。</p> <p>2 教材文を読み、慣用句・ことわざ・故事成語の特徴や性質について理解する。</p> <p>・慣用句を使って短文を作る。</p> <p>・ことわざや故事成語の意味を調べる。</p> <p>・P118「生活に生かす」に挙げられている慣用句やことわざの誤用の例を、生活を振り返って探してみる。</p> <p>3 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>→慣用句を使って短文を作ったり、ことわざや故事成語を調べたりしている。</p> <p>【態】積極的に慣用句やことわざ、故事成語を理解し、今までの学習を生かして短文を作ったり調べたりしようとしている。</p>
10	人工知能との未来 人間と人工知能と創造性	4	<p>◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。</p> <p>◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。</p> <p>◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★論説の文章を比較して読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。</p> <p>4 学習を振り返る。</p>	<p>1 文章の要旨を捉える。</p> <p>・内容の信頼性や客観性を確かめながら、それぞれの要旨を捉える。(学習①)</p> <p>2 文章の比較を基にグループで討論し、考えを広げる。</p> <p>・観点を決めて二つの文章を比較し、共通点や相違点を表にまとめる。(学習②-1)</p> <p>・筆者の考えに納得できたこと、できなかったことを手がかりに、「これからの時代に大切なこと」を考え、グループで討論する。(学習②-2)</p> <p>3 自分の考えを文章にまとめる。</p> <p>・2で行った討論を基に、「これからの時代に大切なこと」を300字程度で文章にまとめる。</p>	<p>【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。</p> <p>→自分の知識や経験と比べ、筆者の意見や根拠に納得できるかどうか検討しようとしている。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。</p> <p>→二つの文章を比較して共通点や相違点を表にまとめ、それを基に、話し合っている。</p> <p>・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。</p> <p>→自分の立場を明確にし、根拠となる事実を引用するなどして、自分の意見を書いている。</p> <p>【態】積極的に二つの文章を批判的に読み、学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめようとしている。</p>
10	多角的に分析して書こう	4	◎具体と抽象など情報と情報との関係について	1 批評文について知り、題材を選ぶ。	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めてい

	説得力のある批評文を書く		<p>理解を深めることができる。</p> <p>◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。</p> <p>◎表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。</p>	<p>・地域社会の中で見聞きしたことや、メディアを通して知ったこと、本や映画など、関心のある事柄や気になった事柄を選ばせる。</p> <p>2 観点を決めて分析する。</p> <p>・広告の例を参考に、対象とする事柄の特性や価値などについて、観点を決めて客観的に分析し、自分の考えを書き出す。</p> <p>3 構成を考える。</p> <p>・意見と根拠の関係など、説得力のある論理の展開を考える。</p> <p>・自分の考えを支える資料の引用を検討する。</p> <p>4 推敲して仕上げる。</p> <p>・下書きをして友達と助言し合い、清書する。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <p>・どのように分析・吟味して批評をまとめたか。</p> <p>・どのような工夫をして文章にまとめたか。</p>	<p>る。</p> <p>→具体的な題材を基に、その価値についてまとめている。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。</p> <p>→観点を決めて問いと考えを書き出し、表にまとめるなどして分析している。</p> <p>・「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。</p> <p>→自分の意見を支える根拠となる資料を引用するなどして構成を考え、批評文を書いている。</p> <p>【態】粘り強く表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりし、学習の見通しをもって批評文を書こうとしている。</p>
10	漢字に親しもう 4	1	<p>◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 新出漢字を確認する。</p> <p>2 練習問題に取り組む。</p>	<p>【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。</p> <p>→文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることに慣れている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
10	【議論】話し合いを効果的に進める	1	<p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。</p> <p>◎進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを上げたり深めたりすることができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★互いの考えを生かしながら議論や討論をする。</p>	<p>1 卒業文集のテーマ設定についての話し合いの例を聞き、論点を整理する。</p> <p>・それぞれの意見の共通点と相違点を聞き取り、話の論点を整理する。</p> <p>・話し合いの目的に合わせて、効果的に進めるために、話し合いの展望をもつ。</p> <p>2 テキストの□の欄に当てはまる発言を考える。</p> <p>・参加者になったつもりで、話し合いの進め方について意見を述べる。</p> <p>3 学習を振り返る。</p> <p>・話し合いを効果的に進めるためには、どんなことに注意すればよいか。</p>	<p>【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。</p> <p>→全体に関わる大きな論点から、具体的な論点へと話し合いを進める方法を考えている。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを上げたり深めたりしている。</p> <p>→話し合いの目的や進み具合など展望をもって効果的に話し合う工夫を考えている。</p> <p>【態】積極的に進行のしかたを工夫し、学習したことを生かして効果的な話し合いについて考えようとしている。</p>
11	合意形成に向けて話し合おう 課題解決のために会議を開く	4	<p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。</p> <p>◎進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考え</p>	<p>1 合意形成の重要性を知り、課題を見つけ、議題を決める。</p> <p>2 グループで具体的な提案を考える。</p> <p>・ブレインストーミングでアイデアを出し合い、グループごとに提案を絞り込む。</p>	<p>【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。</p> <p>→複数の発言の共通点を結び付けて、一つの提案にまとめている。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫し</p>

			<p>を広げたり深めたりすることができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★互いの考えを生かしながら議論や討論をする。</p>	<p>3 全体会議を開く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観点を決めてグループごとの提案を検討する。 ・互いの意見のよいところを生かして合意形成に導く。 <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通点などを見つけて、提案を整理したか。 ・合意形成するために、どんなことに気をつけたか。 	<p>たり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>→提案を分類・整理し、観点を決めて検討したり、互いの意見の長所を生かしたりして話し合っている。</p> <p>【態】合意形成に向けて粘り強く考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもって話し合おうとしている。</p>
11	6 いにしえの心を受け継ぐ 和歌の世界 音読を楽しもう 古今和歌集 仮名序	1	<p>◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 「和歌の世界」を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」について興味をもつ。 <p>2 「古今和歌集 仮名序」冒頭部分を朗読し、作者の思いを想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣いに気をつけて朗読し、古文の言葉の響きやリズムを味わう。 	<p>【知・技】歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。</p> <p>→「和歌の世界」を読んだり、「仮名序」を朗読して比喩的な効果を確認したりしながら、和歌に対する古人の思いを捉えようとしている。</p> <p>【態】進んで古典の世界に親しみ、今までの学習を生かして朗読しようとしている。</p>
11	君待つと ——万葉・古今・新古今	3	<p>◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。</p> <p>◎和歌の表現のしかたについて評価することができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★和歌を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。</p>	<p>1 和歌を声に出して読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朗読を通して言葉の響きやリズムを楽しむ。 <p>2 和歌の世界を味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代語訳や語注を参考に、和歌に詠まれた心情や情景を想像し、用いられている表現技法について知る。 ・三つの和歌集の歌を比較して、表現について感じたことなどを話し合う。 <p>3 心に響いた和歌を一首選び、鑑賞文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脚注などを参考にしながら心情や情景を考える。 <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの和歌から、どのようなことを想像したか述べる。 ・どのような表現や内容に着目して鑑賞したか挙げる。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。 <p>→三つの歌集の歌を比較したり朗読したりして、それぞれの作者の心情や情景を想像している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。 →気に入った言葉や表現の効果などに気づき、引用している。 <p>【思・判・表】「読むこと」において、和歌の表現のしかたについて評価している。</p> <p>→心情や情景、和歌の表現方法などについて自分の考えをもっている。</p> <p>【態】進んで和歌の表現のしかたについて評価し、見通しをもって鑑賞文を書こうとしている。</p>
11	夏草 ——「おくのほそ道」から	4	<p>◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。</p> <p>◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。</p> <p>◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。</p> <p>◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わ</p>	<p>1 作品を朗読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・俳句と地の文から成る構成の効果に気づき、芭蕉の思いを想像しながら全文を朗読する。(学習①) <p>2 芭蕉のものの見方や感じ方を読み取る。(学習②)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芭蕉の「旅」に対する思いが読み取れる部分を抜き出し、現代の「旅」がもつ意味と比べる。 ・高館や光堂での芭蕉の思いを想像する。 <p>3 心に響く俳句について発表する。(学習③)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の心に響く俳句を一句選び、その理由などについて発表し合う。 <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「夏草」の、表現や文体の特徴を挙げる。 ・芭蕉のものの見方や感じ方について考えたことを発表する。 <p>5 古典の言葉を引用し、メッセージを贈る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P162の手順を読み、これまで学習した古典の文章から、気に入った言葉や心に響いた言葉、誰かに贈ってみたい言葉を選ぶ。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。 <p>→作者や作品について興味をもち、俳句と地の文との関係に注意しながら朗読している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。 →古典の言葉を引用して鑑賞文やメッセージを書いている。 <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 →芭蕉の「旅」についての考えを読み取り、現代の「旅」がもつ意味と

	【書写】学習を生かして書く	2	<p>り、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★古典の文章を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。</p> <p>★情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く。</p> <p>●行書と仮名を調和させながら、日常生活に生かせるように書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> どのような状況の、誰に、どのような目的でメッセージを贈るのかを考える。 自分の思いを表現するのにふさわしい文章の種類を選び、選んだ古典の言葉の意味と、伝えたい思いとの関連を意識してまとめる。 <p>6 文章を友達と読み合い、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の状況や自分の思いにふさわしい言葉や文章の種類を選択したか。 論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫したか。 <p>1 漢字の行書の連続、省略、変化と仮名の調和について理解するため、教科書で学習し終えた『おくのほそ道』冒頭部分を硬筆で書く。</p> <p>2 松尾芭蕉が書いた『おくのほそ道』冒頭部と自己の書写と比較しながら鑑賞し、違いや特色を友人と話し合う。</p> <p>3 俳句について学んだ後に季節に合わせた俳句を作り、小筆または筆ペンで短冊に俳句を書く。</p>	<p>比較している。</p> <p>→芭蕉が見たものや感じたことを想像している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。 <p>→自分の思いを表現するのにふさわしい文章の種類を選び、相手の状況を踏まえて構成を工夫してメッセージを書いている。</p> <p>【態】人間、社会、自然などについて進んで自分の意見を持ち、今までの学習を生かして発表したり文章にまとめたりしようとしている。</p> <p>【態度】これまでの学習を生かしながら、点画の連続・漢字と仮名の大きさ、配列などを理解して書けた。</p>
12	7 価値を生み出す 誰かの代わりに	3	<p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</p> <p>◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★論説の文章を読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。</p> <p>●行書の特徴や配列を理解し毛筆で書く。</p>	<p>1 筆者の考えを確認しながら全文を通読する。(学習①)</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 共感・納得できる、イ 反対・納得できない、ウ 疑問・わからないなどの観点に沿って、本文に記号を付けながら読む。 <p>2 筆者の考え方について話し合う。(学習②)</p> <ul style="list-style-type: none"> 抽象的な概念を表す語句の文脈上での意味に注意しながら、筆者の考え方について話し合う。 <p>3 自分の考えをまとめる。(学習③)</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合ったことを基に、社会や人間に対する筆者の考えについて、自分の考えをまとめる。 <p>4 学習を振り返る。</p> <p>1 1、2年の学習を振り返る。</p> <p>2 3年の行書手本「創造」「旅立ちの朝」の特徴と筆遣いを考え、話し合う。</p> <p>3 手本の特徴や配列を理解し毛筆で書く。</p>	<p>【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>→抽象的な概念を表す語句を辞書で調べたり、文脈上での意味を確認したりしながら、文章を読んでいる。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。</p> <p>→文章を批判的に読み、友達と意見を交換しながら、筆者の考えについて自分の考えをまとめている。</p> <p>【態】人間、社会、自然などについて進んで自分の意見を持ち、今までの学習を生かして、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりしようとしている。</p> <p>【思・判・表】「創造」「旅立ちの朝」の特徴と筆遣いについて考えを発信できる。行書手本の特徴や配列を理解し毛筆で書くことができる。</p> <p>【態】今までの学習を振り返り、知識や技能を活用しながら自己の学びを表現できる。</p>
12	情報を読み取って文章を書こう グラフを基に小論文を書く	2	<p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。</p> <p>◎論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見い</p>	<p>1 グラフから情報を客観的に読み取り、自分なりの問いを立てて分析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 着眼点を決めてグラフなどの資料を読み取り、それに対して自問自答して、自分の考えをまとめる。 <p>2 構成や内容を考えて小論文を書き、助言し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 読み取ったことを基に、二段落構成の小論文を書く。 	<p>【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。</p> <p>→具体的な情報を基に、着眼点を決めて分析し、自分の考えをまとめている。</p>

	【書写】書式の教室	2	<p>だすことができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。</p> <p>●さまざまな書式を学び、自己の生活で活用する。</p>	<p>・書いた小論文を読み合い、P172窓「小論文で自分の考えを書くには」の推敲・助言の観点を参考に、よい点や改善点を伝え合う。</p> <p>3 学習を振り返る。</p> <p>・資料から読み取ったことを基に、説得力のある論理展開を実現できるよう、助言を踏まえてどこをどのように推敲したか。</p> <p>1 年賀状・包み紙（慶弔）・一筆箋・原稿用紙・願書や志願理由書など生活に関わる書式を学ぶ。</p> <p>2 時期に合致した書式で実際に書く。</p>	<p>【思・判・表】「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。</p> <p>→資料から読み取ったことと考えとの関連などについて、改善点を助言し合って推敲している。</p> <p>【態】論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえて粘り強く推敲し、学習の見通しをもって小論文を書こうとしている。</p> <p>【知・技】書式を使う場面に合った留意点で書くことができる。</p>
12	漢字3 漢字のまとめ 漢字に親しもう5 季節のしおり 冬	1	<p>◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 二年生までに学習した漢字を復習する。</p> <p>・漢字の部首、音訓、成り立ちや構成、送り仮名などを確認しながら問題に取り組む。</p> <p>2 三年生で学習した漢字を復習する。</p> <p>・熟語の読み方、造語力などに気をつけながら問題に取り組む。</p> <p>3 P176「漢字に親しもう5」の問題に取り組む。</p>	<p>【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。</p> <p>→文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることに慣れている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
1	わたしを束ねないで	2	<p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</p> <p>◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★詩を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。</p>	<p>1 朗読を通して、詩のもつイメージを捉える。</p> <p>・気になった言葉や表現上の特徴などを抜き出し、気づいたことを述べ合う。</p> <p>2 作者の思いを読み取り、自分の可能性について考える。</p> <p>・詩に込めた作者の思いを想像し、現代に生きる自分たちの可能性について話し合う。</p>	<p>【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>→言葉の使われ方や表現の特色に気をつけながら詩を朗読している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。</p> <p>→詩に描かれた情景や作者の思いを想像しながら、社会状況や人間の生き方について考えている。</p> <p>【態】詩を読んで進んで考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして、作品の価値や自分の可能性について考えをまとめようとしている。</p>
2	三年間の歩みを振り返ろう 冊子にまとめて、発表会をする	6	<p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</p> <p>◎敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。</p> <p>◎場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫するこ</p>	<p>1 三年間の学びを振り返り、冊子のテーマを決める。</p> <p>・印象に残っている学習を思い出し、それを基に、三年間の学びを総括するテーマを決める。</p> <p>2 冊子の構成を考える。</p> <p>・整理する観点を決め、タイトルや内容、編集後記などの構成を考える。</p> <p>3 冊子を作る。</p> <p>・2で考えた構成を基に、三年間の学びを冊子にまとめる。</p> <p>4 発表会を開く。</p> <p>・冊子の編集後記の内容を中心に、「これまで」と「これから」の学びについて発表する。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <p>・三年間の学習をどのように振り返り、まとめたか。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>→目的や相手を意識して言葉を選び、冊子をまとめようとしている。</p> <p>・敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。</p> <p>→相手や場を意識しながら適切な言葉を選び、自分の考えを伝えている。</p>

	【書写】3年間の書写の学びの成果を生かす	2	<p>とができる。</p> <p>◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを書いて質問したり評価などを述べたりする。</p> <p>★情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く。</p>	<p>・友達と作品を読み合ったり、発表を聞き合ったりする中で、自分の考えを深めることができたか。</p> <p>1 未来の自分を意識しながら卒業に向けて心のこもったメッセージカード（家族・友人・先生）を作る。 ・内容の構想→文字の大きさや字体の構想→レイアウトの構想→筆記用具の選択→作成</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。</p> <p>→相手を意識して敬語を適切に使い、自分の考えがわかりやすく伝わるように構成を考えて発表している。</p> <p>・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。</p> <p>→自分の考えや思いがわかりやすく伝わるように構成や内容を考えて冊子を作っている。</p> <p>【態】粘り強く言葉を選んだり構成を工夫したりし、今までの学習を生かして、文章にまとめたり、友達の発表を聞いて質問したり評価したりしようとしている。</p> <p>【思・判・表】【態】</p> <p>3年間の学びを生かして表現効果を意識して書くことができる。</p>
2	漢字に親しもう6	1	<p>◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（主体的に学習に取り組む態度）</p>	<p>1 これまでの学習を生かして、練習問題に取り組む。 ・三年間の漢字の総まとめとして、言葉の意味を辞書で確認しながら漢字を読んだり書いたりする。</p>	<p>【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。</p> <p>→音訓や部首などに気をつけて、これまでに学習した漢字を読んだり書いたりしている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
3	学習を振り返ろう	4	<p>学習を振り返ろう</p> <p>4時間</p> <p>◎敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。</p> <p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。</p> <p>◎時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解することができる。</p> <p>◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。</p> <p>◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。</p> <p>◎自分の立場や考えを明確にし、相手を説得でき</p>	<p>1 P225の小説を読み、学習課題に取り組む。 ・表現を基に、登場人物の心情を考えたり、根拠を基に、自分の考えを書いたりして問題を解く。</p> <p>2 P228の説明文を読み、学習課題に取り組む。 ・「アイヌ民族が長年守ってきた知恵」を文章から読み取る。 ・先人の知恵や文化が受け継がれた言葉を一つ取り上げ、その意味と由来を説明する。</p> <p>3 P229のスピーチ原稿を読み、学習課題に取り組む。 ・課題文と図表の関係を読み取り、適切な提示のしかたを考える。 ・論理の構成を考え、聞き手の興味を引くような説明のしかたを工夫する。</p> <p>4 P230の図表を用いて、学習課題に取り組む。 ・箸の使い方を示したポスターの説明のしかたを考える。 ・説明するにはどちらの図がいいか比較し、その理由を話し合う。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。</p> <p>→相手や場を意識して敬語を使ってスピーチしたり、説明文を書いたりしている。</p> <p>・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。</p> <p>→目的に応じて情報を収集・整理して相手にわかるように説明している。</p> <p>・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解している。</p> <p>→昔の時間の表し方や地名などを調べ、現代と比較したり、現代に受け継がれたりしていることを理解している。</p> <p>・自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。</p> <p>→アイヌ民族における地名に関する文章を読み、読書によって世界が広</p>

		<p>るように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫することができる。</p> <p>◎場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。</p> <p>◎表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★論説や報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。</p> <p>★詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。</p> <p>★提案や主張など自分の考えを話したり、それら聞いて質問したり評価などを述べたりする。</p> <p>★情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く。</p>		<p>がることを理解している。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。</p> <p>→文章に表れているものの見方、考え方と自分の考えを比較して、人間や社会について自分の考えを書いている。</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。</p> <p>→目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように表現のしかたを工夫している。</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。</p> <p>→自分の考えがわかりやすく伝わるように聞き手の反応を確かめながら、問いかけたりわかりやすく言い換えたりしている。</p> <p>・「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。</p> <p>→本文から根拠となる部分を挙げて、客観的に自分の考えを書いている。</p> <p>【態】粘り強く文章や資料を読み取り、今までの学習を生かしてそれぞれの学習課題に取り組もうとしている。</p>
--	--	--	--	---

*大半の授業で映像や資料提示のため ICT を活用する。